

家庭学習の手引き（5年生）

◎家庭で学習する習慣をつけよう⇒時間を決めて取り組もう

4年生までの積み重ねで、「宿題はする」という習慣が身につけてきているはずですが、5年生では、自分で見通しを持った計画を立て、自らすすんで家庭で学習する習慣をつけていきましょう。

習い事などで、毎日決まった時間に学習するのはむずかしいことですが、「学校から帰って来たらすぐにする」「ご飯を食べてからする」など、その日の予定に合わせて、自分で時間を決めて行えるようにしていきましょう。

◎学習環境を整えて取り組もう

4年生までの学習の様子で、「テレビを見ながらしている」「散らかった机の上でしている」など学習環境が整っていないことがわかってきました。だらだらと過ごすことのないよう、集中して取り組むために「テレビは消してからする」「机の上を片づけてからする」など学習環境を整えて行えるようにしていきましょう。

◎自主学習に取り組もう

5年生では、4年生までに身につけた学習習慣・生活習慣をさらに高めていきます。あたえられた「宿題」だけでなく、自分の課題に合った学習を見つけ「自主学習」にも取り組みましょう。

◎「10分×学年数(5年)+10分」の「60分以上」が家庭学習の目安です。

※宿題は家庭学習の一部です。

「だらだらと過ごしていたら1時間たっていた」これでは意味がありません。大切なのは時間の長さではなく、集中して取り組むことです。量と質のどちらも意識したうえで、集中して取り組める時間を増やしていきましょう。

1. 家庭学習の前にはすること

- (1) 学校でもらってきたプリント類をおうちの人に必ず見せましょう。
- (2) テレビを消す・机の上のものを整頓する・ゲームやスマートフォンなどを持っている人は宿題の間だけでもおうちの人に返しましょう。集中力を奪われるものをなくし、自分で集中できる環境をつくりましょう。

2. 家庭学習に取り組む

宿題

- (1) 国語（漢字など）の学習… ていねいに、正かくに、覚える意識を持って書きましょう。
- (2) 算数（計算など）の学習… ていねいに、正かくに、わからないところをたしかめて計算しましょう。

《その他》 音読、日記、調べ学習、教科書を読むなど

自主学習

家庭学習を宿題だけで終わるのではなく、「自主学習」に取り組みましょう。各教科の予習をして授業理解にいかしたり、復習をして学習内容を定着させたりするとよいでしょう。

【例】漢字・計算の学習、読書、日記、感想文、意見文、社会や理科の調べ学習、意味調べ、縄跳び、など

3. 家庭学習が終わってからすること

明日の予定を合わせる、持ち物を準備するなど、自分で忘れ物をしないための工夫をしながら、きっちり次の日に備えた確認をしましょう。

宿題に関する保々小学校の共通理解



保々小学校では、学力の定着と向上をめざすために、授業の充実と家庭学習の定着が学びを進める車の両輪となると捉えています。学校では教職員の校内研修の充実を図り、家庭には土日も含めた家庭学習の取り組みをお願いすることにしました。また、家庭学習については、各学期に1週間程度「家庭学習振り返り週間」を設け、保護者の方にも家庭学習に関心を持っていただき、お子様の頑張りを応援いただくようお願いしてきました。その結果、学年の目標時間はもとより、その内容を工夫するお子様が年々増えてきました。また、土日の家庭学習の充実を図るため、自主学習の取り組みを学級だよりなどで紹介するようにもしてきました。

家庭学習の取り組みは一年一年の積み重ねと捉えています。そのため、職員間で以下のことを共通理解と確かめ、裏面に各学年の家庭学習の手引きを掲載することにしました。各家庭のご協力を、お子様のためによりしくお願いします。

【宿題とは何か、何のために出すのか】

- ・宿題は『家庭学習の一部』と捉える。その日に学んだことの復習を基本の内容とします。
- ・学年が進むにつれ、量より質を大事にできる子を育てることをねらいとします。
- ・学ぶことは楽しい、わかることは楽しいということが小学校期にわかる子を育てていきたく思います。
- ・毎日の積み上げで、力をつけることができるようにします。

【宿題の内容と出し方】

- ・内容としては、漢字と算数は毎日の宿題に入っているようにします。
- ・量は、全員ができる量とこれだけはやって欲しい量を考えて出します。
- ・個別に内容や量を調整することはあります。
- ・時間の目安については引き続き「10分×学年数+10分」とします。(中学校1年生の段階で1時間以上集中して学習ができることが求められることから)
- ・目標時間に達しない子は、その時間を自主学習などに充てます。

【宿題をしてこなかった子への対応】

- ・「わからなかったからできなかった」という子もいます。忘れてきた理由を本人と確かめます。
- ・その理由によっては、学校で休み時間を使ってやらせることもあります。少なくとも、やらなくても・出さなくても「よし」とはしません。

【自主学習について気をつけたいこと】

- ・内容は、宿題や授業内容に関連したことを、話し合っ進めます。
- ・「自主学習とは、学力に結び付く内容である」ことを共通理解とし、例えば「文を書く力をつけたい」「まとめる力をつけたい」「わかりやすくまとめる、表す力をつけたい」など、「何のためにそれを自主学習としたのか」を子どもたちが意識できるようにします。
- ・自分で工夫しながら自主学習に取り組める子をめざして、発達段階に応じた形態をとるようにします。